

受験番号	
名前	

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二十世紀を代表する科学者であるアルバート・アインシュタイン(一八七九—一九五五)は、こんな予言をしています。

「ミツバチがいなくなったとしたら、人類は四年以内に滅びる。」

これは本当でしょうか。

小さな虫のために、人類が減ってしまうようなことは起こりうるのでしょうか。

種子植物の中には、風で花粉を運ぶ風媒花と、虫に花粉を運んでもらう虫媒花とがあります。そして、植物のうちおよそ八割以上が虫媒花であると言われています。風まかせの風媒花は、花粉がどこへ飛んでいくかわからないので、非効率です。これに対して虫媒花は、花から花へと昆虫が花粉を運んでくれるので、効率的です。そのため、①多くの植物が虫媒花へと進化を遂げたのです。

地球に咲く多くの花々の花粉を昆虫が運んでいます。それだけ、たくさんの昆虫が必要なのです。花粉を運ぶ昆虫の中でも、特に大きな役割を果たしているのがミツバチなど、ハナバチの仲間です。ハチは運動能力が高く、せっせと花粉を運んでくれるのです。しかもミツバチは、女王を中心とした家族を形成する社会性昆虫です。自分のためだけでなく、仲間の分まで花を飛び回って蜜を集める働きものです。その働きによって、花粉もよりたくさん運ばれていくのです。

もし、ミツバチがいなくなってしまつと、多くの植物は子孫を残すことができずに絶滅してしまいます。もし、地球上の八割もの植物が失われてしまったとき、地球の環境や気候はどうなってしまうのでしょうか。

さらには、私たちが食べる作物の多くも虫媒花です。国連の報告によれば、世界で生産されている作物のおよそ三割がミツバチによって受粉されていると言われています。世界の作物生産の三割が失われた時に、地球に住む七十億人を超える人口はどうなってしまうのでしょうか。

つまり、ミツバチが減びると、①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿が滅び、()が滅び、()が滅びるといいます。

(稲垣栄洋「怖くて眠れなくなる植物学」より)

問1 ①「多くの植物が虫媒花へと進化を遂げたのです」とありますが、それはなぜですか。「風媒花」と比較して答えなさい。

()
問2 ハチが花粉をたくさん運ぶ理由を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から書きぬきなさい。
ハチは、()
()が高く、また自分の分だけではなく、()
()まで蜜を集めるから。

問3 ()②()③()にあてはまる言葉を文章中からそれぞれ二字で書きぬきなさい。
②() ()③() ()

問4 この文章の内容にあてはまらないものを一つ選び、記号に○をつけなさい。
ア アルバート・アインシュタインはミツバチがいなくなると人類は滅びると予言している。
イ 種子植物のほとんどが風媒花で、花から花へと風が花粉を運んでくれる。
ウ ミツバチは女王を中心とした家族を作って生活をし、他の昆虫よりもたくさん花粉を運ぶ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

何もなかったみたいにふるまえば、何もなかったことになる。そんな(①)考えをすてたのは、校門を出てから数分後、最初の角を曲がった辺りだった。どんなに必死で話題をふっても、律はうんともすんとも言わない。背中に感じる気配は冷たくなるばかり。やっぱり、(②)律はおこってるんだ。そりゃそうだ。

昼休み、みんなで話をしていたとき、はっきりしない律にじりじりして、つい、言わなくてもいいことを言った。軽くつつこんだつもりが、律の顔を見て、重くひびいてしまったのが分かった。(③)まずい、と思うも、もうおそい。以降、絶対にぼくの顔を見ようとしないう律のことが気になって、(④)野球の練習を休んでまで玄関口で待ちぶせをしたのに、いざ並んで歩きだすと、気まずいちゃんもくにたえられず、またべらべらとよけいなことばかりしゃべっている自分がいた。

「この前、給食でプリンが出てから、もうずいぶんたつよな。」

「むし歯が自然に治ればなあ。」

「山田んちの姉ちゃん、一輪車が得意なの、知ってたか。」

何を言っても、背中ごしに聞こえてくるのは、さえない足音だけ。ぼくがしゃべればしゃべるほど、その音は遠のいていくような気がする。

ふいに母親の小言が頭をかすめたのは、下校中の人かげがあちへこちへ枝分かれして、道がすいてきたころだった。

「周也。あなた、おしゃべりなくせして、どうして(⑤)会話のキャッチボールができないの。会話っていうのは、相手の言葉を受け止めて、それをきちんと投げ返すことよ。あなたは一人ではんぼん球を放っているだけで、それじゃ、ピンポンの壁打ちといっしょ。」

ピンポン。なんだそりゃ、とそのときは思ったけど、今、こうして壁みたいにだまりこくっている律を相手にしていると、(⑥)その意味が分かるような気がしてくる。たしかに、ぼくの前は軽すぎる。ぼんぼん、むだに打ちすぎる。もっとじっくりねらいを定めて、いい球を投げられたなら、律だって何か返してくれるんじゃないか。

でも、いい球って、どんなのだろう。考えたときに、舌が止まった。何も言えない。言葉が出ない。どうしよう。あわてるほどにぼくの口は動かなくなって、逆に足は律からにげるようにスピードを増していく。

無言のまま歩道橋をわたった先には、しかも、市立公園が待ち受けていた。道の両側から木々のこずえがたれこめた通り道。人声も車の音も、工事の騒音も聞こえない緑のトンネル。ぼくはこの静けさが大の苦手だった。

正確にいうと、だれかといるときにちんもくが苦手だ。たちまち、(⑦)落ち着きをなくす。何か言わなきゃってあせる。野球チームに入る前、律とよくいっしょに帰っていたころも、ぼくはこの公園を通りかかると、しんとした空気をかきまぜるみたいに、(⑧)ピンポン球を乱打せずにいられなかった。律のほうはちんもくなんてちっとも気にせず、いつだって、マイペースなもんだったけど。

(森絵都「帰り道」より)

問1 (①)にあてはまる言葉を一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア からの イ おいしい ウ あまい エ 塩辛い

問2 (②)「律はおこってる」とありますが、ぼくは律のどういう態度からそう思ったのですか。

※問題はその三に続きます。

受験番号	
名前	

問3 ③「まずい、と思うも、もうおそい。」と思ったのはなぜですか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア いつもの調子で、言わなくてもいいことをみんなに言って白けさせてしまったと分かったから。
 イ 軽くつつこんだつもりだったのに、律には重くひびいてしまったことが、律の顔から分かったから。
 ウ はっきりしない律のことは分かっているはずなのに、ついみんなの手前、強く責めてしまったから。

問4 ④「野球の練習を休んでまで玄関口で待ちぶせをした」とありますが、「ぼく」はなぜそうしたのですか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 前からはっきりしない律にいらだっていたので、この際きちんと言い聞かせようと思ったから。
 イ いっしょに帰りながら話すことで、律との気まずくなった関係を修復したいと思ったから。
 ウ いつまでも「ぼく」の顔を見ない律に、言いたいことがあれば言える機会を作ろうと思ったから。

問5 ⑤「会話のキャッチボール」とは具体的にどうすることだと母は言っていますか。次の文章にあてはまる言葉を文章中から書きぬきなさい。

会話とは () () を受け止めて、きちんと () () こと。

問6 ⑥「その意味が分かるような気がしてくる」とありますが、「ぼく」はどういうことに気づいたのですか。
 () ()
 問7 () ⑦ () にあてはまる言葉を一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア わくわくと イ ふわふわと ウ うきうきと エ そわそわと

問8 ⑧「ピンポン球を乱打せずにいらなかった」について、ピンポン球を乱打するとはどういうことをたとえていますか。
 () ()

三 次のぼう線部の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 推理小説を読む。 () ② 細心の注意をほらう。 ()
 ③ 道路を補強する。 () ④ 希少価値のある品物。 ()
 ⑤ 場所を設ける。 () ⑥ 山々が連なる。 ()
 ⑦ 一人、家路につく。 () ⑧ 声高にうったえる。 ()

四 次のぼう線部を漢字に直して書きなさい。送り仮名が必要な場合は送り仮名も書くこと。

- ① シテンを変えて考える。 () ② 意見にサンセイする。 ()
 ③ 展覧会がヘイマクする。 () ④ 例外をノゾク。 ()
 ⑤ 罪人をサバク。 () ⑥ 早起きをシュウカンにする。 ()
 ⑦ 原因をキュウメイする。 () ⑧ 情報をシュシヤ選択する。 ()

